

関係資料

**津波防災啓発DVD「津波からにげる」及び
「学校における緊急地震速報対応行動訓練実施手引書」**



(音戸の瀬戸公園)

平成24年5月24日

各市町教育委員会教育長様
(広島市を除く)

広島県教育委員会教育長
(豊かな心育成課)

津波防災啓発DVD「津波からにげる」及び「学校における緊急地震速報対応行動訓練実施手引書」の送付について（通知）

このことについて、広島地方気象台から別紙写しのとおり事務連絡がありました。ついでには、緊急地震速報対応行動訓練実施手引書を電子データで送付しますので、訓練の趣旨を踏まえ、積極的に活用するなど防災教育の一層の充実に努めるよう指導してください。

また、訓練実施について、訓練用のツールの貸出し及び出前講座等を希望する際は、広島地方気象台防災業務課に連絡してください。

なお、津波防災啓発DVD「津波からにげる」、ハンドブック、正誤表について、別途送付しますので、所管の小学校へ1部ずつ配付し、安全教育に活用してください。併せて、DVDの指導内容解説、指導案集を電子データで送付しますので参考にしてください。

担当 健康教育係
電話 082-513-5036 (ダイヤルイン)
(担当者 藤井)



事務連絡
平成24年5月17日

広島県教育委員会 教育部
豊かな心育成課長 殿

広島地方気象台
防災業務課長

津波防災啓発DVD「津波からにげる」及び「学校における緊急地震速報対応行動訓練実施手引書」の送付について（依頼）

平素は、気象行政に関しまして、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今般、気象庁では、東日本大震災を踏まえて、津波から自ら判断して避難することの大切さが子供にも分かりやすく理解できる津波防災啓発DVD「津波からにげる」を別紙の内容で作成しました。併せて、同DVDを授業などで利活用していただける場合の補助資料として、津波ハンドブック「津波からにげる」も作成しました。

このため、当台では、同DVD及びハンドブックを広島県内の各市町や全ての小学校へ配布させていただき、各市町での住民への出前講座や各学校での授業等で御活用していただきたいと考えております。

また、昨年、貴県と共同で取り組み作成しました「学校における緊急地震速報対応行動訓練実施手引書」も同様に配布したいと考えている次第です。

つきましては、各学校への連絡及び送付等について御協力をお願い申し上げます。

【本件に関する問い合わせ先】

広島地方気象台 防災業務課 鈴木
電話：082-223-3965

1 作成目的

- ・大きな地震が発生した後は『迅速かつ自主的に避難』するという意識の向上
- ・避難に必要な津波の正しい知識
- ・日頃から津波に備えることの大切さ

2 収録内容

- ・本編：17分（字幕なし、日本語字幕または英語字幕が選択可能）
（本編の内訳は、アニメが5分、インタビューが4分、クイズが4分、防災マップを作ろうが3分です）
- ・解説編：17分（本編について利用する際のポイント：教職員向けの資料）
- ・資料映像：43分（津波映像、シミュレーション映像など）

3 DVD活用・特徴等・・・授業等での活用が目的

- ・小学校の1単元（45分）を基に作成
- ・チャプター毎の再生が可能 ⇒ 短時間の学級活動（終りの会等）での活用が可能
- ・低学年の場合、アニメーション部分のみでの利用も可能

4 ハンドブック

- ・授業等で指導される先生方向けに回答例等を記載。
児童向けの配布用（回答例等の記載なし）は、以下の気象庁HPに電子ファイルが掲載されていますので併せて御活用願います。

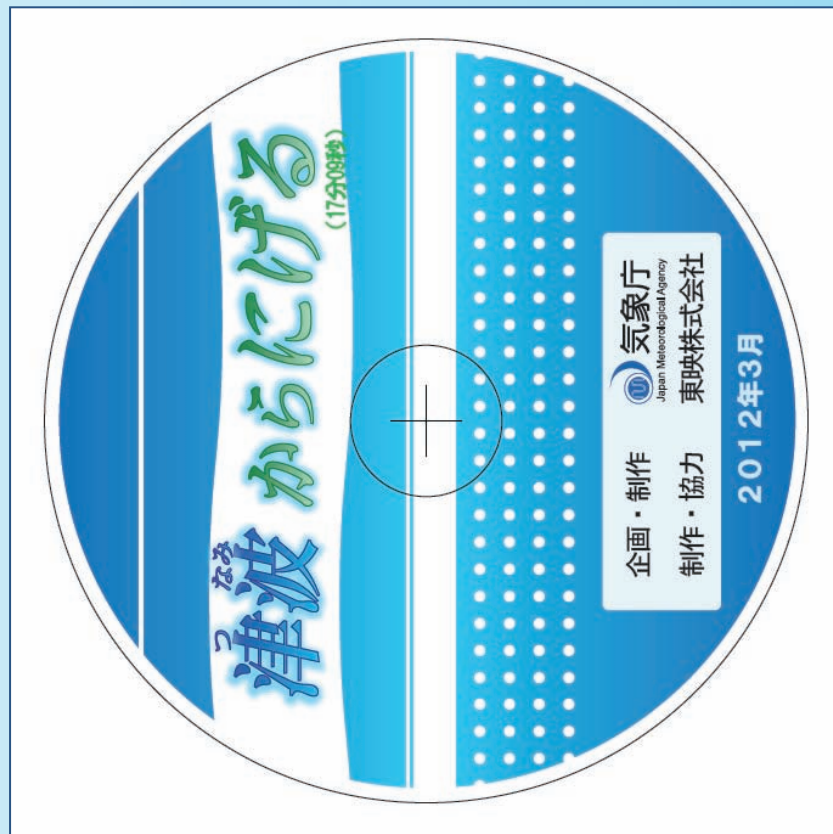
○http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html

5 基本的な活用方法（想定）

- ・DVDの視聴
- ・ハンドブックを活用した振り返り
- ・津波避難等に関する感想発表や意見交換等

「津波からにげる」について

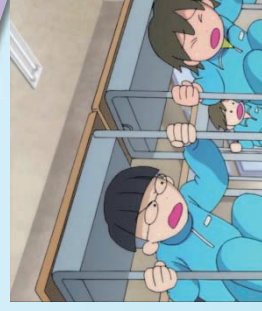
津波から命を守るため、①迅速かつ自主的に避難するという意識の向上、②避難のために必要な津波の正しい知識の獲得、③日頃から津波に備えることの大切さを学ぶことができ、かつ、学校の授業等で活用を期待して津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」を作成しました。



DVDのジャケットとラベル

「津波からにげる」の内容 その1

◎アニメーション（約5分）及びインタビュー（約4分）



アニメーション

東日本大震災における岩手県釜石市立鵜住居小学校の子どもたちが、避難先を何度も替えながら津波からにげた様子をアニメーションで再現。自分たちと同世代の避難の様子が描かれることで自分達のこととして受け入れやすく、更に、アニメーションとしたことでわかりやすく、子どもたちから継続的に津波避難等について学ぶことができる内容としました。

また、実際に避難した先生や子ども達のインタビューを交えながら「津波からどのようにならよいか」を伝える内容もまとめています。

インタビュー



「津波からにげる」の内容 その2

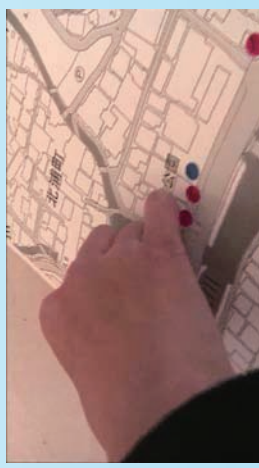
◎津波クイズ（約4分）



津波に関する基礎的な知識を4つのクイズとして出題。回答は映像を交えて解説し、難解となりかちな内容を楽しみながら学ぶことができます。

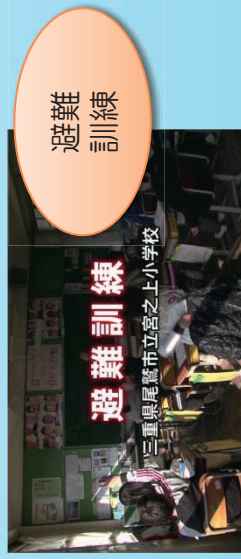
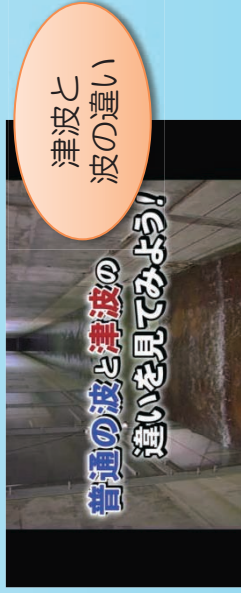
◎防災マップを作ろう（約3分）

日ごろからの備えも重要です。「防災マップを作ろう」では、三重県尾鷲市立宮之上小学校で取組まれた防災マップの作成の事例を紹介。子ども達が町に出て、危険な場所を調べたり、調べた結果を地図上に示していく経過を紹介しています。



◎解説編（本編と同じ約17分）及び資料映像

ビデオがどのような内容が確認する際の参考としての「解説編」や、津波と普通の波の違い、避難訓練の取組みの様子などの映像を収録。事前の参考や個別説明の資料として活用されることを期待しています。



「津波からにげる」を活用してもらうために

- 本ビデオでは、子どもにもわかりやすく伝えられるよう、アニメーションやクイズ等を取り入れてました。
- また、先生が活用するためのポイントを「解説編」として収録、ワークシート「津波防災ハンドブック」を併せて作成するなど、学校の授業で活用していただくためのアイディアを取り入れました。
- その内容や活用案について紹介します。



家族と津波の話をしましょう

「津波からにげる」を見て気づいたことを書いてください。

気づいたことを家族に話し、津波からどのようにひびかなれば良いか話し合ってください。どのような話をしましたか？

家にひとりで行っているときに地震が起きたらどうしますか？津波警報を聞きししたらどうしますか？

そのほか、話し合ったことを書いてください。

気象庁
お問い合わせ先 気象庁 地震火山部 地域津波防災対策室
〒100-8122 東京都千代田区千代田 1-5-4
TEL: 03(5666-2911) (TEL: 不自由な方向け)
FAX: 03(5666-2911) (TEL: 不自由な方向け)
<http://www.mpa.go.jp/>

監修 全国学校安全教員研修協会
気象庁 気象庁第一学校区
気象庁 気象庁第一学校区
気象庁 気象庁第一学校区

「津波からにげる」
津波防災ハンドブック

目次

1. 2年生用

2 「つなみからにげる」ワークシート

3 「つなみからにげる」の解説

4 津波クイズの仲間ワークシート

5 津波クイズの解説・解説1

6 津波クイズの解説・解説2

3-5年生用

7 「津波からにげる」ワークシート

8 「津波からにげる」の解説

9 津波クイズの仲間ワークシート

10 津波クイズの解説・解説1

11 津波クイズの解説・解説2

12 メモ用シート（複製版）

ハンドブック

「津波からにげる」の活用について

1 基本的な活用のイメージ例（45分～1時間程度）

ビデオ視聴
（約17分）

ビデオ振り返り
（約14分）

感想や意見交換
（約14分）

「津波からにげる」
を利用

ワークシート「津波防災ハンドブック」を利用
（必要に応じて、ビデオを再視聴）

2 活用にあたっての事前準備

- ① ビデオを少しでも円滑に活用してもらえするため、ビデオの内容で注目すべき所や補足となる内容を文字テロップで埋め込んだ「解説編」の事前視聴
- ② ビデオと共に提供するワークシート「津波防災ハンドブック」の回答例やポイントの確認（回答例を記載していないものは気象庁HP等からダウンロードできます）

3 活用場面の例

- ① 訓練における事前説明（訓練直前の他、当日前の事前の学習機会など）
- ② 総合学習や道徳の時間などを活用した防災授業
- ③ 気象台職員や自治体職員などによる出前講座
- ④ 校外学習や臨海学校（特に海の近くに行く場合）の事前学習（注意）

「津波からにげる」の活用について その2

4 活用の目標

- ① 迅速かつ自主的に避難するという意識の向上（主にアニメーションとインタビュアー）
- ② 避難のために必要な津波の正しい知識の獲得（主にクイズ）
- ③ 日頃から津波に備えることの大切さを学ぶ（主に防災マップ）

5 活用展開例と活用ポイント

- ① 導入として、大地震や津波はいつ起こってもおかしくないことや、大きな被害をもたらすことなどを伝える
- ② 「津波からにげる」を視聴する
- ③ ワークシート「津波防災ハンドブック」を活用して、津波からにげるための意識をより高めてもらうため、ビデオ内容の振り返りを行なう
- ④ ワークシートの「津波クイズ」部分を活用して、津波に関する知識、特に津波から避難するために必要な知識を獲得する
- ⑤ まとめとして感想を発表してもらおう。また、家族や周囲の人たちと津波からの避難や、その方法などについての話し合いを促す。

① 地震や津波が身近なものとして認識できたか

② 津波に関する避難の意識を認識できたか

③ 避難訓練の大切さや、高い所に率先して避難する意識などが身についたか

④ 津波に関する知識を獲得することができたか

⑤ 津波から身を守る意識や知識が獲得できたか、防災意識を共有することの重要性を理解できたか

※詳細については、別添の「学習指導参考例」もご覧下さい。

単元名 津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』を見て考える津波防災
 ー指導案ー
 (45分授業用)

1 単元の目標

平成23年(2011年)に発生した「東北地方太平洋沖地震」をふまえ、大きな地震が発生した後は大きな津波が発生することを考え、迅速かつ自主的に避難することが大切である。いざというときの率先避難の意識と、避難に必要な津波の正しい知識、そして、日頃の備えの大切さを伝える事を目的とする。

- ①津波は大きな被害をもたらす威力を持った恐ろしいものだが、率先して避難する意識を持つことで、自分や他人の命を救うことを知る。
- ②避難のための津波の正しい知識を得る。
- ③いざというときのための津波に対する日頃からの備えについて学ぶ。

2 題材設定の理由

単元で使用する津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』は、東北地方太平洋沖地震で釜石を襲った津波の実例をアニメーションで再現した部分と、津波に関するクイズの部分、三重県尾鷲市で行われた防災マップ作りの取材映像の三部で構成されている。アニメーション部分では、津波の恐ろしさやいざという時の避難のあり方を意識に植えつける効果を狙う。クイズ部分では、津波に関する基礎知識を認識させる。最後の実写パートでは、津波に対する日頃の備えの大切さを児童に訴える。

3 展開

学習活動	支援(○)・評価(☆)
1. 導入 東日本大震災や、身近な災害についての話題から、本時の学習課題を確認する。	○大地震が身近でいつ起こっても不思議ではないという事を認識させる。 ○津波は地震が大きな被害をもたらす事を伝える。 ☆地震や津波が身近なもので、いつ襲ってくるかわからないものだと認識できたか？
2. 『津波からにげる』を視聴する。	○鷗住居小学校の子どもたちがどのように助かったのかを事実に沿って視聴させる。 ☆集中して視聴し、津波に関する避難の意識を認識できたか？
3. ワークシート「つなみからにげるには(小学校1・2年)」「釜石の子どもたちはどうやって津波からにげた?(小学校3～6年)」を使って、アニメーションで視聴した津波からにげるための意識を定着させる。	○鷗住居小学校の事例を元に、津波から避難するためのポイントを自ら考えさせる。 ☆避難訓練の大切さや、高いところに率先して逃げる意識などが身についたか？
4. ワークシート「つなみクイズ(小学校1・2年)」「津波クイズ(小学校3～6年)」を使って、津波に関する基礎知識を理解させる。	○津波に関する基礎的な知識について、本編の振り返りや補足情報などをヒントにクイズに解答させる。 ☆津波に関する知識を獲得できたか？
5. まとめ 感想を発表する。また、家族と津波についての話し合いをするようにする。	○津波に対して率先して避難する意識を定着させ、家族と防災意識を共有することで、地域や家庭と連携した防災体制をはかる。 ☆津波から身を守る意識や知識を獲得したか？ ☆家族と防災意識を共有することの重要性を理解できたか？

単元名 津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』を見て考える津波防災
 ー指導案ー
 (15分授業×3)

1 単元の目標

平成23年(2011年)に発生した「東北地方太平洋沖地震」をふまえ、大きな地震が発生した後は大きな津波が発生することを考え、迅速かつ自主的に避難するということが大切である。いざというときの率先避難の意識と、避難に必要な津波の正しい知識、そして、日頃の備えの大切さを伝える事を目的とする。

- ①津波は大きな被害をもたらす威力を持った恐ろしいものだが、率先して避難する意識を持つことで、自分や他人の命を救うことを知る。
- ②避難のための津波の正しい知識を得る。
- ③いざというときのための津波に対する日頃からの備えについて学ぶ。

2 題材設定の理由

単元で使用する津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』は、東北地方太平洋沖地震で釜石を襲った津波の実例をアニメーションで再現した部分と、津波に関するクイズの部分、三重県尾鷲市で行われた防災マップ作りの取材映像の三部で構成されている。アニメーション部分では、津波の恐ろしさやいざという時の避難のあり方を意識に植えつける効果を狙う。クイズ部分では、津波に関する基礎知識を認識させる。最後の実写パートでは、津波に対する日頃の備えの大切さを児童に訴える。

3. 指導計画

時間	学習活動	支援(○)・評価(☆)
1	【『津波からにげる』アニメーション部分と逃げた人たちの証言を視聴する。】 ○ワークシートを活用し、津波からにげるための意識を定着させる。	○鶴住居小学校の事例を元に、津波から避難するためのポイントを自ら考えさせる。 ☆避難訓練の大切さや、高いところに率先して逃げる意識などが身についたか？
2	【『津波からにげる』クイズ部分を視聴する。】 ○ワークシートを活用し、津波に関する基礎知識を理解させ、定着させる。	○津波に関する基礎的な知識について、本編の振り返りや補足情報などをヒントにクイズに解答させる。 ☆津波に関する知識を獲得できたか？
3	【『津波からにげる』防災マップ作り部分を視聴する】 ○自分の住んでいる地域について興味を持たせ、地域を知ることが防災の助けになることを学ばせる。 ○家族と防災について話し合うきっかけをつくる。	○地域の危険なところや安全なところなどを、地元の地図を見ながら発表させる。 ☆積極的に地域の様子を調べる意識を持つことができたか？家族と話し合うことの重要性を理解したか？

<p>単元名 津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』を活用した訓練意識の高揚 —指導案— (45分授業)</p>

1 単元の目標

平成23年(2011年)に発生した「東北地方太平洋沖地震」をふまえ、大きな地震が発生した後は大きな津波が発生することを考え、迅速かつ自主的に避難することが大切である。いざというときの率先避難の意識と、避難に必要な津波の正しい知識、そして、日頃の備えの大切さを伝える事を目的とする。

①津波は大きな被害をもたらす威力を持った恐ろしいものだが、率先して避難する意識を持つことで、自分や他人の命を救うことを知る。

②避難のための津波の正しい知識を得る。

③いざというときのため、いざというときの避難場所の確認や実際に避難行動をとって「日頃からの備え」を学ぶ。

2 題材設定の理由

単元で使用する津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』は、東北地方太平洋沖地震で釜石を襲った津波の実例をアニメーションで再現した部分と、津波に関するクイズの部分、三重県尾鷲市で行われた防災マップ作りの取材映像の三部で構成されている。全体を通して「避難の大切さ」や「日ごろからの備え」そして「いざと言うときは率先して行動」することの大切さが盛り込まれており、視聴後に実際に行動をすることで、見て学んだ知識と行動が組み合わさって身につけられる。

3. 展開

	学習活動	支援(○)・評価(☆)
	1. 【『津波からにげる』アニメーション部分と逃げた人たちの証言を視聴する。】	○鵜住居小学校の事例を元に、津波から避難するためのポイントを自ら考えさせる。 ☆避難訓練の大切さや、高いところに率先して逃げる意識などが身についたか？
	2. 訓練の行動内容等を説明し防災訓練や避難訓練の実施	○訓練内容や訓練行動時の注意について説明 ○避難場所や避難経路についての説明 ☆真剣に行動することができたか ☆避難所の場所、避難経路、避難経路上の危険な場所などが確認できたか
	3. ワークシート「つなみからにげるには(小学校1・2年)」「釜石の子どもたちはどうやって津波からにげた?(小学校3~6年)」を使って、アニメーションで視聴した津波からにげるための意識を定着させる。	○鵜住居小学校の事例を元に、津波から避難するためのポイントを自ら考えさせる。 ☆避難訓練の大切さや、高いところに率先して逃げる意識などが身についたか？

NHK のチャイム音を用いた緊急地震速報訓練用音源 CD 活用した

学校における緊急地震速報対応行動訓練 実施手引書（平成24年度版）

目次

○ はじめに ～緊急地震速報対応行動訓練キットの内容等解説～	…… 1
1 訓練実施計画書の策定 ～訓練実施計画書の重要性及び訓練実施計画書の例～	…… 2～4
2 「訓練実施計画書の例」の 「緊急地震速報及び訓練実施内容の説明」例	…… 5～6
○ おわりに ～学校における緊急地震速報対応行動訓練の重要性とお願い～	…… 7

広島県教育委員会
広島地方気象台

○はじめに ～緊急地震速報対応行動訓練キットの内容等解説～

気象庁では、地震による被害を軽減するため、地震発生直後に強い揺れが来ることを可能な限り素早く知らせる警報として、「緊急地震速報」を平成19年10月から広く国民の皆様に提供を開始し、併せてこの情報を適切に活用していただけるように様々な普及活動に努めているところです。

しかし、緊急地震速報が発表されてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかであり、その短い間に「あわてずに身を守る」など適切な行動をとるためには、日ごろから繰り返し訓練をしておくことが非常に重要です。この一環として、全国各地の各機関等で実施される防災訓練のなかで、簡便に緊急地震速報受信時の対応行動訓練を実施して頂くことが可能となるように、広島地方気象台では次のとおり各種の「緊急地震速報受信時対応行動訓練用キット」を用意しています。

広島地方気象台で貸与等可能なコンテンツ（CD、DVD）

- 1 緊急地震速報広報用映像（短縮版DVD）※1
- 2 NHK テレビ、ラジオで実際に放送された緊急地震速報発表時の映像、音声（CD）※1
- 3 NTT ドコモ携帯端末の緊急地震速報報知音（CD）※1
- 4 NHK 緊急地震速報訓練用映像資料（DVD）※2
- 5 NHK のチャイム音を用いた緊急地震速報訓練用音源（CD）※2

【貸出等にあたり留意事項】

※1 映像・音源の著作権はNHK 及びNTT ドコモにありますので、訓練等の使用時には広島地方気象台に御相談下さい。

※2 貸出にあたり取り扱いの留意点について

訓練用DVD、CDの使用は、訓練にのみ可能とします。訓練用DVD、CDは譲渡できませんので、利用者の皆様には広島地方気象台から借用書とともに貸出とします。なお、貸出期間は特に定めませんが、長期の貸し出しとなる場合には、定期的（1回/6ヶ月[3月、9月]）に、広島地方気象台への連絡を行なうようお願いいたします。貸出を受けた利用者はDVD、CDの複製は厳禁です。当初の目的を達成した場合には、借用書とともにDVD、CDを広島地方気象台に返却をお願いします。

ここではNHKのチャイム音を用いた緊急地震速報訓練用音源CDを活用した訓練の実施方法について、御紹介します。本CDは、緊急地震速報受信時の対応行動から地震による揺れが収まった後の避難行動開始までの訓練を支援するため、音声により一連の流れを表したものです。本CDの内容と訓練行動例は下の表のとおりで、パソコンで再生を開始すると、訓練概要説明等の後、1分20秒後にNHKで使用しているチャイム音とともに「地震です！落ち着いて身を守って下さい！」とアナウンスの後、1分35秒後に地震の揺れの効果音が約20秒間流れるようになっていきます。

訓練用音源CDを用いた訓練例（小学校等）

経過時間	放送内容	訓練行動例
0分～1分10秒	①訓練概要説明	
1分10秒～1分20秒	②訓練開始報	
1分20秒～1分35秒	③緊急地震速報（NHKチャイム音＋アナウンス）	適切な <u>対応行動</u> を取る （机の下に潜る etc.）
1分35秒～1分55秒	④地震による揺れ発生（効果音）	対応行動を継続
2分00秒～2分05秒	⑤避難行動開始案内	避難行動を開始 （校庭に避難する etc.）
2分15秒～2分20秒	⑥訓練終了報	（避難行動等を継続 etc.）

1 訓練実施計画書の策定

訓練キットの内容等を参考に、まず「訓練実施計画書」の策定を以下の理由から推奨致します。
また「訓練実施計画書」の例は、次ページに示しますので参考にしてください。

何故「訓練計画書」が重要なのか？

～危機管理（＝学校の安全）には「PDCAサイクル」が重要～

一般的には規模が大きな地震であればあるほど、地震発生後に強い揺れが収まった後、大きな余震が多く発生することがあります。

また、大きな被害発生後には、110番や119番などの緊急通報を確保するため固定、携帯電話とも被災地向けの発着信規制が行われるため、音声による保護者などの関係者との連絡がほとんどできなくおそれがあります。

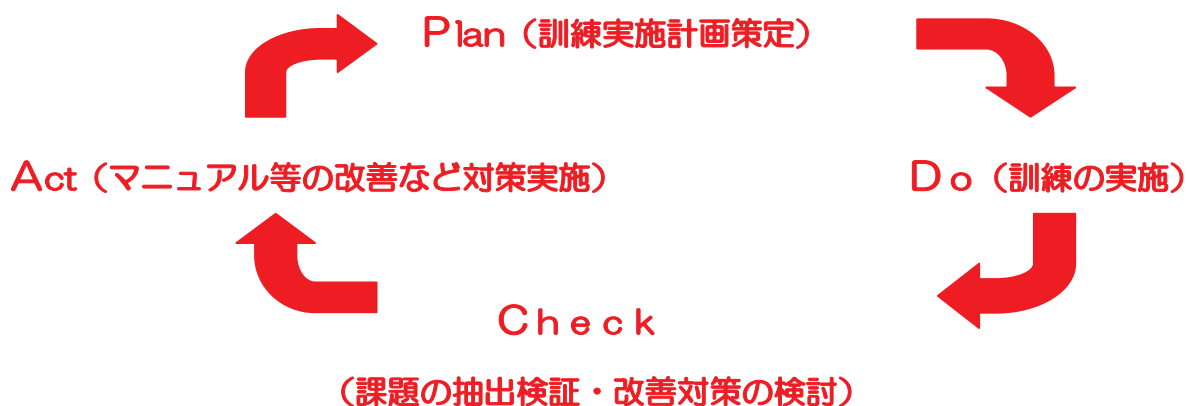
さらに、一般の方々の避難場所にも指定されている学校もあり、災害発生後には、児童・生徒への安全確保だけでなく、様々な配慮すべきこともあると思います。

そこで、ここに紹介している緊急地震速報対応行動訓練を、効率的かつ効果的に行うだけでなく、「大地震で学校に危険な場所はないか？」「避難手順、経路に問題はないか？」など、学校で策定している「避難マニュアル」等について、事前に皆さんで話し合い・検証し、この「訓練実施計画書」を策定しておくことは大変重要です。

また、訓練終了後、どこに課題があって、どのような改善をしたら良いか、児童、生徒の感想も聞いて事後検討をし、また必要に応じて保護者の皆様の理解・情報共有をしていくことも大変重要で、その際この「訓練実施計画書」が非常に役に立ちます。

このように学校における安全確保とは、危機管理であることを認識していただくとともに、検証、マニュアル等の改善、訓練実施等は繰り返し行うこと、すなわち「PDCAサイクル」が肝要です。

PDCAサイクル



訓練実施計画書の例（小学校等）

時刻（開始時刻からの目安）	実施内容	場所	担当者
00分～05分	① 緊急地震速報及び訓練実施内容の説明	体育館、運動場など	〇〇
05分～10分	② 各教室へ移動、教室で待機 ※黙って移動を指示（私語厳禁）	教室へ	担任
10分～	③ 緊急地震速報対応行動訓練	教室	担任
	1 緊急地震速報訓練キットを再生して、校内放送	校内放送室	△△
11分20秒～	2 「緊急地震速報」の放送を聞いたら、直ちに机の下にもぐるなどの退避行動を執る※ ※担任の指示がなくとも、各自能動的に本対応行動が執れるように、①にてよく説明しておく。	教室	担任
12分～	3 避難訓練 (1)地震の効果音が収まる。		
	(2)緊急地震速報訓練キット再生停止	校内放送室	△△
	(3)予め定めた（本計画書策定時に確認済）避難経路で避難誘導開始 「地震の揺れが収まりましたが、この後また大きなゆれが襲ってくる（余震の多発）かもしれないので、安全に気をつけて、（校庭などの）避難場所に避難します。」 「まず、防災頭巾か座布団を頭に被りなさい（なければ頭を手で覆うこと）。そして、『おさず』『はしらず』『しゃべらず』『もどらず』（お・は・し・も）を守り、先生の後に付いて慌てず避難しましょう。避難の途中で何かあったら、必ず先生の指示に従って下さい。」（準備が整ったら）「では避難開始！」 【留意事項】 ・非常持出品（出席簿等最低限）の携帯 ・避難誘導時、安全の確認！余震に襲われた時などの適切な指示	教室	担任

時刻（開始時刻からの目安）	実施内容	場所	担当者
	<p>(4)職員の避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の安全を確認 ・ 校長（不在時代行者）の指示により、職員避難 ・ 救急用品の携帯 	<p>職員室 用務室</p> <p>保健室</p>	<p>校長（教頭等）</p> <p>養護担当</p>
	<p>(5)安否確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長（不在時代行者）は避難場所へ移動（避難）し、指揮。 ・ 各教室児童（学生）は、担任の誘導で避難場所に集合・整列 ・ 担任及び職員室班長は、校長に避難状況報告 <p>「〇年〇組 登校者全〇〇名。異常なし！」</p> <p>欠席者のある場合</p> <p>「〇年〇組 全〇〇名、内欠席者×名。異常なし！」</p> <p>※異常がある場合は優先して報告</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>避難場所</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 残留者の確認 <p>特に「トイレ」など児童（生徒）、職員が残りそうな場所を重点に、分担して確認。</p> <p>※自身の安全確保が優先</p> <ul style="list-style-type: none"> ● けが人の応急措置 ● 報告 <p>担当者→教頭→校長</p>	<p>×校舎 〇階</p> <p>…</p> <p>△校舎 〇階</p>	<p>各担当職員</p>
20分	<p>(6)講評</p> <p>訓練において気がついた点を中心に訓示</p>	<p>避難場所</p>	<p>校長等</p>
25分	<p>(7)訓練終了（解散）</p>		
できれば当日中	<p>(8)今後に資するために</p> <p>児童（生徒）・先生の感想を集約</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>教室</p>	<p>担任</p>
後日	<p>訓練検証会（職員会議、HRなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練における課題の共有 ・ マニュアルの改善等改善策検討 ・ 改善策の周知（次回訓練実施含む） 		

2 「訓練実施計画書の例」の「①緊急地震速報及び訓練実施内容の説明」例

各教室か一同会する場を設けて次を参考に事前説明をして下さい。

【小学校用例】

私達の住んでいる日本は、体に揺れを感じない地震も含めて、年間約12万回も地震が発生しているそうです。その中で大きな地震が度々起こって、多くの方々の大切な命を奪ったり、家などを壊しています。昨年3月11日には「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」という非常に大きな地震（震災名：東日本大震災）が起こって、地震による強い揺れや大津波によって、2万人近くの方々が亡くなったり未だに行方不明をはじめ、家、学校、職場が壊れたり流されたりするなど、大きな（甚大）な被害が起こりました。また広島県でも今から約10年前の平成13（2001）年3月24日には「芸予地震」という大きな地震が起こって、亡くなられた方（広島県：1名 愛媛県1名）もあり、また大きな怪我をした方や大事な家を失くした方が多くおられます。

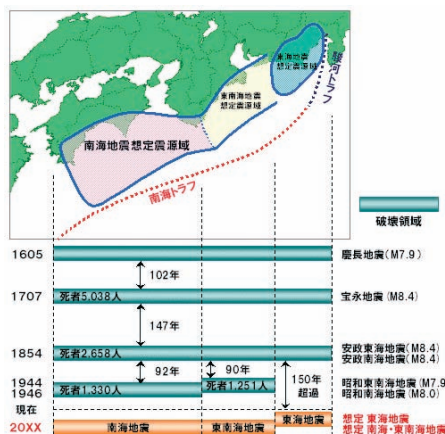
皆さんの住んでいる（〇〇市、町）でも、近くで大きな地震が発生する可能性の場所（五日市断層帯、安芸灘断層群など）があります。^{※1} また皆さんが大人になって職場や家庭で働きざかりの頃までには、「南海地震」という大きな地震が起こる可能性が非常に大きく、この地震が起こると、特に広島県の海岸の地域（場所）を中心に、被害をもたらす大きな揺れや、海岸や河口（川の海に近い場所）では、「津波」に襲われると言われていています。^{※2}

大きな地震が起こることを、天気予報のように「いつどこで起こるぞ」と予想できればいいのですが、

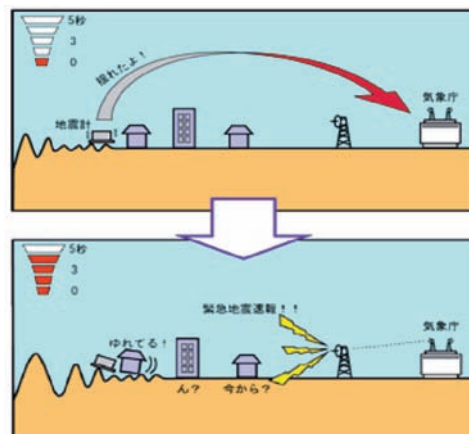
※1 広島県の地震活動の特徴については、次のホームページなどを参考にして下さい。
地震調査研究推進本部 広報活動のページ内 http://www.jishin.go.jp/main/p_koho.htm
「日本の地震活動 一被害地震から見た地域別特徴」 8 中国・四国地方の地震活動の特徴
<http://www.jishin.go.jp/main/nihonjishin/2010/chugoku-shikoku.pdf>

現在の科学力では残念ながら予想することはできず（現在我が国で短期直前予知の可能性があるのは「東海地震」だけ）、一生懸命研究をしているところです。ただし、地震が起こった後でも、強い揺れが間もなくやってくることを少しでも事前を知ることができれば、その短い時間のなかで「自分の命やからだを守る行動」をとることができます。そこで気象庁（気象台）では、地震による大きな揺れから皆さんの貴重な命やからだを守るために、平成19（2007）年10月から、大きな地震の発生したすぐ後に、地震が発生した場所に一番近い地震計でとらえたデータをすばやく調べて（分析して）、「強い揺れが来ますよ！からだを守って下さい！」というお知らせをしています。

このお知らせを「緊急地震速報」と言います。^{※3}



※2 想定される震源域と発生時間間隔



※3 緊急地震速報のしくみ

ただし「緊急地震速報」は、大きな地震が起こることを予想しているのではなく、地震が起こった後にすばやく皆さんにお知らせするものなので、強い揺れが来るほんの少し前（数秒から数十秒）にしかお知らせすることができません。また、近いところで大きな地震が起こった場合は、お知らせが強い揺れに間に合わないこともあります。

※可能であれば、（では、広島地方気象台から借りたNHKの緊急地震速報の映像を見てみましょう。＜NHK 緊急地震速報訓練用映像資料（DVD 54秒）＞）

これから皆さんは「緊急地震速報」をテレビやラジオなどで見たり、聞いたりすることや、思いがけないところで大きな地震に襲われるかもしれません。このようないざという時に、どのようにすれば「あわてず、まず自分の命やからだを守れる」のか訓練して、しっかりと身につけておくことが大切です。また、大きな地震が襲ってきたら、予めどのような物や場所が危険で、どこが安全な場所かなどについて、みんなで話し合い、どうしたらいいか考えておくことが大切です、

そこで、今日は「緊急地震速報」を聞いたら、地震からまず身を守る訓練と、地震の強い揺れが収まった後に（校庭などの）避難場所への避難訓練を行います。まず、この後各教室（調理実習室、理科室なども可）に帰ります。そして授業を受けている時に大きな地震が起こったこととして、「緊急地震速報」と地震の揺れの音を校内放送します。

「緊急地震速報」を聞いたら、各自すぐに丈夫な机の下に隠れましょう。

また、体育館で授業中や登下校時などで隠れる場所がない時には、落下物、窓、ブロック塀、崖から離れて、安全な場所で体を低くして頭を手で覆って下さい。

そして、地震の揺れる音がしなくなったら、先生の指示に従って、あわてないで、「おさず」「はしらず」「しゃべらず」「もどらず」（お・は・し・も）を守り、避難場所（運動場、校庭など）へ避難しましょう。



緊急地震速報です！

対応行動例

気象庁本庁庁舎における訓練の様子

緊急地震速報対応行動例



職員の見守り行動

丈夫な机の下に潜る！



本庁内にある気象科学館での一般の方々の見守り行動

周囲に身を守る物がない場合、ガラス、倒壊物、落下物から離れ、安全な場所にて、身を低くして頭を手で覆う！

緊急地震速報 利用の心得 ふだんから、家屋の耐震化や家具の固定など、地震に備えましょう！

地震の揺れを感じたら…
(緊急地震速報がなくても)

まわりの人にも声をかけながら

あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞したら…
(地震の揺れを感じなくても)

緊急地震速報を発令してから強い揺れがくるまでの時間は、数秒から数十秒しかありません

家庭では

- 揺れを軽減し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- ぐらりと火を消そうとしない

自動車運転中は

- あわててスピードを落とさない
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに減速をとおす

人が大勢いる施設では

- 係員の指示にしたがう
- あわてて出口に走り出さない

屋外(街)では

- スロップシートの構造物に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意

鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる

エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる

目的地の状況により具体的な行動は異なります。白濁からいざというときの行動を考えておきましょう

**緊急地震速報対応も含む
地震発生時の各場所での
対応行動例（心得）**

～緊急地震速報 広報用リーフレットより～

おわりに ～学校における緊急地震速報対応行動訓練の重要性とお願い～

自然災害から将来ある子どもたちを守るためには、感受性の豊かな子どもの時期に、防災に関する知識を理解し、行動を身につけておくことが、大変重要と考えています。

特に、不意に発生する大地震に備え、身を守るための適時・適切な行動や方法を身につけるには、本手引書で紹介したような訓練を日頃から繰り返し実施することが重要です。

東日本大震災では、小・中学校における児童・生徒が地震や津波発生時の対応を学校で繰り返し学んだことにより、迅速かつ適切な避難ができた、また授業を終え帰宅をしていた児童・生徒が率先避難者となって、高齢者が避難できたなどの成功事例があります。

学校における本訓練の実施をはじめとする防災教育は、児童、生徒から学校で学んだことを各家庭でお話していただくことにより、保護者をはじめとする家族の皆様にも関心・防災意識を持っていただくことにも繋がり、その結果地域の防災力が向上し、安全・安心な地域づくりにつながると考えます。

以上の趣旨を御理解いただいて、御多忙の授業スケジュールの中、地震や火災の避難訓練など時期を捉えるなどして、本手引書で御紹介した訓練を積極的に行っていただくように、お願いを申し上げます。

○地震に対する備え

- ・ 芸予地震などの体験をいつまでも「忘れない！」
- ・ 正しい知識を習得して、必要以上に「怖れない！」でも「悔らない！」
- ・ 訓練等を「繰り返し！」実施
- ・ 学校、家族、近所等で話し合い、危険及び安全な場所の把握、いざという時の連絡方法、最低3日間は命を繋ぐための水・食糧等の準備、ガラスなどの落下や飛散防止・家具等の固定、緊急地震速報受信装置整備、建物の耐震補強など「できることから」対策を！

○津波に対する備え

- ・ 海岸や河口に出かけた時には（付近にお住まいの方も）、**安全な避難場所（足で逃げられる近くの高台、ない場合は鉄筋コンクリートの丈夫な建物）を決めておく！**
併せて正しい情報を得られるように携帯ラジオ、電話を持っていく。
- ・ **強い揺れを感じた時や、弱い揺れでも長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時、また津波警報が発表されたら「すぐ避難！」**
- ・ **津波注意報であっても、海水浴、潮干狩りや磯釣りは危険なので、ただちに海や河口から離れる。**

なお、本訓練実施や本手引書での御不明の点や日頃疑問に思っていることがございましたら、以下までなんなりと御相談下さい。

また、本訓練、本手引書をさらに充実させていくために、訓練実施後、御意見・御感想をお寄せいただきますように、よろしくお願いいたします。

[お問合わせ先]

広島県教育委員会事務局 教育部 豊かな心育成課
〒730-8514 広島市中区基町9番42号
電話(082)513-5036

広島地方气象台 防災業務課
〒730-0012 広島市中区上八丁堀6番30号 広島合同庁舎4号館
電話(082)223-3953